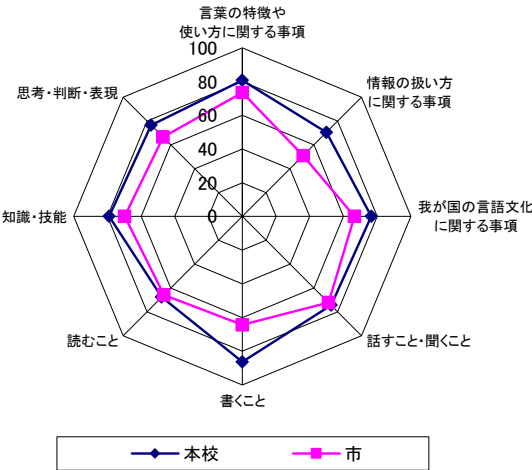


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.7	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	70.6	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	76.5	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	74.5	72.3	73.7
	書くこと	86.3	64.3	66.6
	読むこと	67.6	65.8	64.9
観点別	知識・技能	79.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	76.5	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

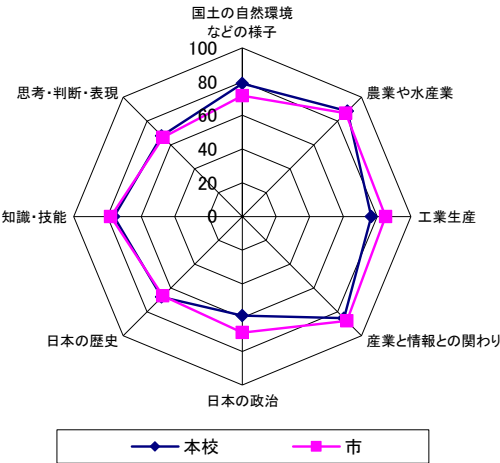
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ○●6年生の漢字の読みと5年生の漢字の書きの問題は、市の正答率より高い問題と低い問題、どちらもあった。特に「破れる」という漢字を書く問題で、市の平均より6.8ポイント低かった。 ○●熟語の成り立ちや文と文との接続の関係を理解する問題は市の平均より高いが、正しい敬語の使い方を選ぶ問題は、市の平均より4.6ポイント低かった。 ○2段落構成の文章を書くことができる児童の割合は市の平均より、30.9ポイント高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、ミニテストやステップアップシート等を実施し、朝の学習の時間や家庭学習などで計画的に取り組み、定着を図る。また、グループ活動を取り入れ、情報の扱い方について議論しながら学び合う機会を設ける。 ・読み手のことを意識しながら情報をまとめる力を伸ばすために、文章を互いに読み合う活動を継続して行う。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均を19.6ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、正答率が70.6%と市の平均を19.9ポイント上回った。	・資料の内容を読み取って文章に適切に書き表す活動は、社会科や総合的な学習の時間など他教科でも取り組み、定着を図る。また、グループ活動を取り入れ、情報の扱い方について議論しながら学び合う機会を設ける。 ・読み手のことを意識しながら情報をまとめる力を伸ばすために、文章を互いに読み合う活動を継続して行う。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均を10.0ポイント上回っている。 ○和語、漢語、外来語について理解している児童が76.5%と市の平均を10.0ポイント上回った。	・語句の由来や和語、漢語、外来語について、随時ワークシートやミニテストを行って確認し、単元の学習後も継続して指導し、更に知識・理解を定着させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率は64.7%と、市の平均より18.3ポイント高かった。 ●意図に応じた話し方の工夫を選ぶ問題では、市の平均より12.3ポイント低かった。	・聞く力・話す力の育成を図るため、話し手の意図を考えながら話を聞かせたり、自分の立場を明確にして話したりする機会を多く設けるようにする。特に、話し合い活動で相手の意図を正しく理解するために、どんな質問をしたらよいのか、具体例を挙げて考えられるようにするため、クラス全体で確認しながら話し合いを行えるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を22.0ポイント上回っている。 ○どの問題も市の平均より高かったが、特に予想される反論とそれに対する意見を具体的に書く問題で、市の平均より35.3ポイント高かった。	・定められた条件の中で文章を書く機会を意識的に設けて、文章を書かせるようにする。また、相手の意図を正確に捉え、自分の立場や考えを明らかにして考えを書けるよう指導を行う。 ・一人一台端末を活用し、互いの文章を読み合い書き方の参考にしたり、自分の文章を推敲したりする時間を設け、文章を書く力を向上させる。
読むこと	平均正答率は、市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○●説明文においては、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の正答率を19.9ポイント上回ったが、叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均より6.7ポイント低い。 ○●物語文においては、人物像を具体的に捉える問題の正答率が、100%で市より14.1ポイント高かったが、文章を読んでまとめた意見や感想から、適切な考えを選ぶ問題の正答率が17.7ポイント低かった。	・物語文では、授業において情景描写と人物の心情の関連に気付かせたり、工夫して音読したりするなどして、より深い心情表現を理解させる。 ・説明文では、段落ごとの要旨や文章構造をまとめる活動に取り組みせるとともに、筆者の考えが記述されている部分をきちんとおさえ、筆者の意図を正確に捉えられるようにする。 ・学校図書館を積極的に活用し、読書活動を一層充実させる。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.8	71.6	69.6
	農業や水産業	88.2	86.7	83.7
	工業生産	76.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	85.3	87.7	77.4
	日本の政治	58.8	68.9	71.7
	日本の歴史	67.6	66.7	66.3
観点別	知識・技能	76.1	78.0	76.7
	思考・判断・表現	67.6	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

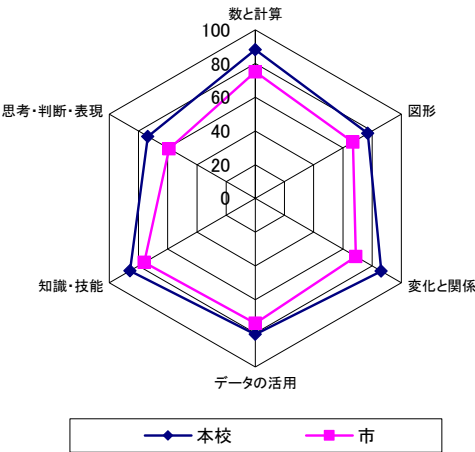
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋名を選ぶ問題は、正答率が100%であった。 ○オーストラリアの位置と国旗を選ぶ問題の正答率は、市より13ポイント上回った。 ●日本で面積が一番大きい湖を答える問題の正答率は、市より9.3ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き、日本周辺の国々の位置や海洋名など、世界地図等の資料を活用しながら正しく理解できるように指導していく。 ・日本の主な地形について、デジタル教科書や資料集、一人一台端末等を活用して確認させ、学習内容の定着を図る。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を1.5ポイント上回っている。 ○米の生産の工程についての理解を問う問題の正答率は、市より12.5ポイント高かった。 ●水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する問題の正答率は、市より5.8ポイント低かった。	・日本の農業や水産業の生産の工程や流通の仕組みなどについて関心を高めるとともに、グラフや資料からどんなことが分かるのか、分かったことからどんなことが考えられるのか等を話し合いながら理解を深めさせていきたい。
工業生産	平均正答率は、市の平均を8.5ポイント下回っている。 ●自動車の製造工程についての理解を問う問題の正答率は、市より12.8ポイント低かった。	・日本の工業の特色や自動車の製造工程、工業製品の分類などについての理解を深めることができるよう、調べ学習や話し合い活動を取り入れるなど指導の工夫を図っていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を2.4ポイント下回っている。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率が76.5%で市より2.6ポイント低かった。	・道徳や特別活動など、他の授業との関連を図りながら、インターネットを使用する際の注意点について正しく理解を深め、効果的に活用できる力を身に付けさせていく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を10.1ポイント下回っている。 ●日本国憲法や日本の政治に関する問題の正答率が低かった。特に、天皇の地位について答える問題の正答率は、市より21.8ポイント下回っている。	・天皇の地位や権限、国民の権利と義務等についての話し合い活動を充実させることで、日本国憲法についての理解を深めさせていく。 ・国民・国会・内閣の関係について、資料や図を活用しながら理解を深め、学習内容の定着を図る。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○江戸幕府の鎖国の窓口についての理解を問う問題の正答率は、市より24.3ポイント高かった。 ●書院造の部屋の特徴についての問題の正答率は、市より15.1ポイント下回った。	・年表や図表、地図、映像等の資料を活用しながら、歴史的対象や文化、歴史上の主な人物の政策等についての学習内容の定着を図る。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	88.2	75.1	75.8
	図形	77.1	66.8	68.3
	変化と関係	86.3	68.8	65.0
	データの活用	80.7	74.1	63.6
観点別	知識・技能	85.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	73.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

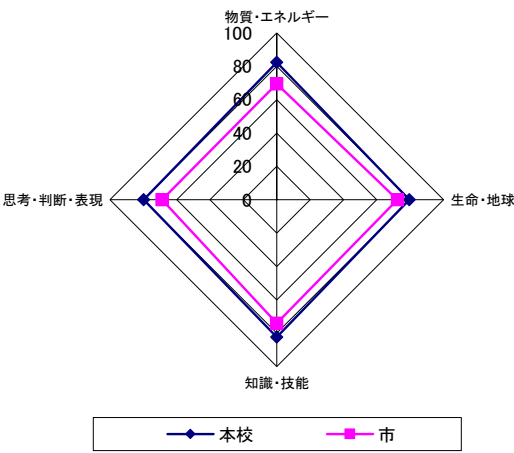
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を13.1ポイント上回っている。 ○小数のかけ算や分数÷分数、図を見て何倍かを解く問題では、いずれも正答率が100%であった。 ●通分を行う真分数＋真分数の計算問題は、市の平均より14.8ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数や分数のかけ算、わり算の計算の仕方を復習し、正しく計算ができるよう指導する。 ・通分のやり方を再確認し、朝の学習や家庭学習の中で計算ドリルやAIドリルなどを活用し、繰り返し練習することで、学習の定着を図る。
図形	平均正答率は、市の平均を10.3ポイント上回っている。 ○図形は、すべての問題において市の正答率の平均を上回っている。特に、角柱の体積を求める問題では、市の正答率を19.1ポイント上回っている。	・対称な図形では、作図を通し線対称と点対称のそれぞれの特徴の理解を深めていく。 ・合同な三角形の作図では、基礎的な描き方や作図に必要な条件を確認してからかく習慣を身に付けさせる。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を17.5ポイント上回っている。 ○変化と関係は、すべての問題において市の正答率の平均を上回っている。特に、表から面積と数の割合を求め、どの鶏小屋が混んでいるか考察する問題では、正答率が100%であった。	・日常生活の中で人口密度を求めたり、分速を秒速や時速に直す場面を考えたりすることで、さらに理解を深めさせていく。 ・目的に応じて、速さや人口密度などを考察する活動や割合を用いて比べる場面等を取り入れていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均を6.6ポイント上回っている。 ○円グラフの読み取りは、100%であった。 ●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるか求める問題では、市の正答率を1.9ポイント下回っている。	・平均の求め方を復習し、さらに求めた平均をどのように活用するのかを確認するなど、日常生活と結び付けて考えさせるようにする。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	82.4	69.5	65.2
	生命・地球	79.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	82.4	74.0	70.7
	思考・判断・表現	79.7	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を12.9ポイント上回っている。 ○物質とエネルギーの領域において、どの問題も市の平均を上回った。特に水溶液にリトマス紙をつけたときの色の変化を問う問題の正答率は、市の平均より31.5ポイント上回った。	・今後も、実験や観察に使う用語や器具の操作方法などの知識・理解の定着を図る。 ・単元においての課題のねらいや解決方法を正しく捉えさせ、予想や仮説を立ててから実験・観察等に臨み、結果を考察する活動や互いの考えを伝え合う活動を取り入れ、思考力や表現力を高めていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ○「植物のつくりとはたらき」や「月と太陽」の内容については、すべての問題において市の平均を上回った。 ●流れる水のはたらきの「水量の変化と水の速さの関係」についての理解を問う問題の正答率は、市の平均を下回った。	・知識及び理解を定着させるため、身の回りの自然現象に目を向けさせ、その仕組みを図や言葉でまとめるなど、新しい知識への関心を高める。また、実際の観察・実験が困難な単元では、引き続き模型やICT等を活用し、より分かりやすい授業展開に努める。 ・思考力・判断力・表現力を向上させるため、実験や観察の目的とゴールを明確にし、児童の予想や結果、考察がその目的に沿っているかを確認したり、互いの考えを発表する場を多く設けたりする。

宇都宮市立清原北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や成 就感を高める授業づくり	・学習意欲を高める導入の工夫や、めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や授業展開の工夫 ・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用	アンケートにおいて、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」、「学習していろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定回答は、3年生以上の学年で全て9割を超えている。引き続き児童の興味関心に合った題材の選択や、学習意欲を高める導入の工夫など、授業づくりに取り組んでいく。「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」の項目で、肯定的回答の割合が高学年は市の平均より高く、中学年は低かった。また、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」の項目では、肯定的回答がどの学年も市の平均より低かった。
家庭学習の充実と習慣化	・記録表を活用した家庭学習の実施 ・学期末や年度末に「清北まとめの学習週間」を設定し、実施 ・自主学習の内容例や参考になるよい実践の紹介	3年生以上のアンケートにおいて、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定回答は、市の肯定割合より低かった。学習時間においては、平日は下学年は30分、上学年は1時間と回答している児童が多かった。再度、自主学習の進め方を確認したり、よい実践を紹介し、参考にさせたりするなど、家庭と連携し、学年に応じたよりよい家庭学習の習慣化を図っていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導や児童の興味関心に合った教材作り、学習意欲を高める導入の工夫などに取り組んでいく。
- ・自己表現や相互理解・相互交流を促す活動の工夫を行う。
- ・ICT機器の効果的な活用方法の工夫を行う。
- ・再度自主学習の進め方を確認したり、よい実践を紹介して参考にさせたりするなど、家庭と連携し、学年に応じたよりよい家庭学習の習慣化を図っていく。